

## 2022年4月実績概要（メモ）

（2022. 5. 26）

定修の集中による減産も薄らぎつつも、定修規模の差を主因に前年割れとなる品目もあり。

## 1. 生産動向

イ) エチレン 397,000トン

前月比 + 6.1% (+ 22,800トン)  
前年同月比 ▲27.1% (▲147,900トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2 %	—
定修要因等	+ 11.5 %	▲ 26.7 %
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 2.2 %	▲ 0.4 %
生産増減率	+ 6.1 %	▲ 27.1 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.1% → 当月94.7% ← 前年同月95.1%  
定修プラント：前月4社4プラント → 当月3社3プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減に対して、定修規模の減少等から、LDPE、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、BRなど13品目がプラス。HDPE、キシレンなどの4品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差、稼働率要因からLDPE、HDPE、PP、PS、SM、EO、EG、トルエンなど13品目がマイナス。MMAモノマー、SBRなどの4品目はプラスとなった。

## 2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数減があったものの、LDPE、PPは定修系列数の減少から、また、PSは稼働率要因からそれぞれプラスとなった。HDPEは主に日数の減少からマイナスとなった。

前年比は、定修系列数の増加や稼働率要因からLDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂ともにマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

資源高に伴ういわゆる企業物価指数の高騰が続くとともに、消費者物価への影響が出はじめており、消費全般の動きとしては弱さが見られている。また、国内製造業では輸送機械等の生産回復が進むも、中国のロックダウン影響に伴う部品調達難等の下振れ要因が依然として尾を引いている。

当月の汎用樹脂の出荷は、このような中、連休入りに伴うユーザー産業の稼働日数減も加わり、前月比は、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

前年比は、定修による供給量の減少もありLDPE、HDPE、PPでマイナス、PSは微減となった。

分野別の出荷動向でも、PPの押出成形分野、PSの包装分野等のみが辛うじてプラスとなったが、各樹脂ともほとんどの出荷分野で前年を下回り、特にLDPE、HDPEは近年の4月の出荷としては低レベルとなった。

ハ) 輸出

前月比は、主要輸出先である中国のロックダウンによる工業生産、サービス業等の不振影響もあり、LDPE、HDPE、PPでマイナスとなった。

前年比は、定修による供給減もこれに加わり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナス幅が多めとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対してLDPE、HDPE、PP、PSで減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPEは低下、HDPEは前月並み、PP、PSは僅かに上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともに、ほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LDPE	▲20,900	3.0	2.9
HDPE	▲21,300	2.9	2.9
P P	▲20,700	2.8	2.9
P S	▲ 300	1.7	1.8

以上